

いつも同じ事しか考えていないと、いざというときに知恵が働かない…固定概念というものは怖いものです。見るものを見ていないと、いざ目に入った時その問題に気づけなかったりします。私たちの人生には、このようなことが度々起こります。ちゃんと見ていないといけないうものを見逃してしまう、そうするとこれは大きな損害になります。私たちの人生には見逃してはならない大事なポイントがあります。そのポイントをしっかり見る必要があります。あなたはちゃんと見えていますか？またベートーベンが耳が聞こえる時は暗い曲が多く、聞こえなくなって明るい曲が増えました。なぜ曲調が変わったかという自分の対する人の評価が耳に入らなくなったからです。私たちに物事の判断は、他人が自分たちを見る目と耳から入る言葉です。その内容が変わることによって私たちの全ての価値観も変わります。人には五感もありますが、基本は耳や目からの情報から物事を判断しています。様々な情報源があっても耳と目だけで人の人生が変わられるほど私たちに語られている言葉や目から入ってくる情報は大きいのです。今回は特に目について考えます。目・脳にはアナログ情報をデジタルに変える働きがあります。目から入ってきたアナログな情報を脳がデジタル化して物事を判断しているのです。この判断をするための最初の情報源は目です。脳が過去に色々な影響を受けた物事から目を通して見たことにより固定概念化されています。脳の動きは25歳までに確定されてしまいます。考え方が小さくなって新しいことができなくなってしまいます。また、新しい事をするのは考え方を要することになるのでストレスが生じます。だから変化を嫌います。脳には自己防衛機能があるので、今までやっていた事をやれば安全、それが失われない限りは今以下にはならないと判断します。だから、私たちに、もっと上に行く・伸びる才能があるのにそれを閉じこめてできなくしているのは目に入る情報なのです。盲目のピアニスト辻井伸行さんやオペラ歌手の新垣勉さんは、目が見えないために別の器官が補おうとした…耳が長けたのです。このように私たちはあるものの見方を変えたり、あるものが無くなることで別のものが栄えてきます。ですから、私たちが今見ているものの見方を少し変える必要があるのではないのでしょうか。(ルカ10：1～37)この箇所では、人の見方を語っています。まず自分が行こうとしていた地に70人を遣わしました。狼の中に羊をおくようなものだと言いながら財布も靴も持つなどと言って送っています。強盗を意識してのことかもしれませんが、神さまに頼るということだけをしなさいという意味もこめられていたと思います。この二つの事柄は一件矛盾して見えますが実は非常に的を得たものでした。神の目線というものはいつもこのように人の成長のために総合的に判断して1つのことをやらせます。その時だけの答えではなく先に至るまで考えられて1つの事をしなさいと言われる。私たちはその1つの事をしようとしても、その時の欲や価値観・怠惰でそれをしないことが多いです。そして目に入ってくる情報で、そのやるべき事をすぐやめてしまったり、神さまが「今がチャンスだよ」と言っている大切な時を逃したりしていることが多いです。なぜそういうことが起こるかという(ルカ10：17)彼らは福音を伝えに出て行ったのですが彼らが喜んで帰ってきた理由が「悪霊どもが私に従った」事でした。全然見ているところが違いました。自分に権威が与えられたことに喜んで、人々が救われたと喜んでる者は一人もいませんでした。そのような弟子たち70人に「だがしかし、悪霊どもがあなたがたに服従するからといって、喜んではいけません。ただあなたがたの名が天に書きしるされていることを喜びなさい。」(ルカ10：15)とイエス様は言われました。繁栄や貧しさだけを見ていると私たちは的を外します。私たちに對して神さまが「これをしなさい」と言っているのに、それをすることで別のもっと良いことを自分なりに考えて喜びに変えてしまうのです。たとえ、素晴らしい業績を上げたとしても本来の意味を見失っては、違うものを見ていけば意味がないと言っています。今日、見方を変えなければいけません。私たちがどの個所に目を向けているのかが重要です。私たちは「何を見ていますか」と聞かれて「今私はこれを見ています。これを見ていてこれを得るために自らはこの行動にたっています」と答えられるでしょうか？もしも答えられないなら見えていないと言うこともありますし、あまりにも近いその時々の問題だけを見ているからです。私たちが信頼関係を築かなければならないのは神さまです。神さまと信頼関係を確立した聖書中の人物はみな「神と人々に愛された」と記されてあります。神と人々に愛される人生を送るためにどのようにしたらよいのか、私たちが神との信頼関係に目が向いていけば、人を裏切るようなことをしません。それができないと永遠に人を裏切る人生になってしまいます。人は自らが裏切られないことをテーマに生きているので、私たちは自分が裏切られないために人を裏切るのです。私たちは、私たちの今まで見てきた価値判断の中で物事を見て判断していますが、今その見るものを変えないと、大切なものを見失うばかりか与えられるであろう、その都度その都度起こる自分に対するポイントを見失うことになるのです。ほとんどの人は自らが神さまに遣わされた事を理解せずその場所に赴いています。遣わされたという事が分からないと人はその場所で行うのが分かりません。家庭で職場でみなさんは何のために何をそこでするのでしょうか？毎月のお給料をもらうためですか？それでは、私たちの目線がお金にしか向きません。見ているところが狭いと身近なところにしか絞れません。私たちは、どこか新しいところへ行く時、行きはとても遠く感じますが、帰りは何ともありません。最初は、見ているものがどこなのか・どこに行くのか分からないからです。しかし帰り道は行く時に通ったところなので分かります。最初に新しい目的地に行く時、行ってみないとそこが目的地なのか分かりません。しかし聖書は見えていないものが見えるように教えてくれます。「信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。」(ヘブル11：1)目に見えないものが確信できるとはどういう事ですか？それは目に見えないものを確信させるためにイエスキリストが私たちが経験して無い事をはじめに経験したからです。私たちが求めている・私たちが見なければならぬ大切な見えないものをいかに見ることができると、イエスキリストがなされた御業です。見えないものが見えるように、見る目を変えるために①変わらないものを見る。私たちは、結果・業績・人間関係などあまりにも変わるものに目を向けています。これら全て目に見えるものです。私たちに、良い時・悪い時があります。(詩編34：6～11)私たちはどんなときも神さまに目を向けなければなりません。私たちは変わらないものを見続けることで私たちが悪い方向に変わらないで済むのです。(使7：50～60)ステパノは石打にあっても変わらないものを見て強かったです。そして「主よ。この罪を彼らに負わせないでください。」と言えるのです。私たちも私たちに牙をむくものに対して正しい判断と愛をもってその人を赦すことができるかが大切なことです。②自分のところを見る。私たちは決断を出す時・行動しようとする時に私たちのところの本音が何なのかを知らなければなりません。良い決断を出そうとする時に本当にいい方向に向きたいのかそれとも自分が手柄をたてたいのか、それゆえに決断を出すのか…自分のところを見張らなければなりません。どうしてこのような決断を出そうとしているのか自分のところを知らなければなりません。全ての事柄は色々な理由をつけてモチベーションを下げさせてやる気を無くします。私たちに悪い状況の時にいかにやる気になれるのかが、変わらないものを見ていることとなります。これでまた状況がかわっても私たちのやる気は変わりません。私たちはよく人のせいにして自分のやることを正当化してしまいます。私たちは自分のところをよく見て、どうしてそのように考えてしまうのかそれを制するべきです。(箴4：20～27)私たちが神さまとともにいて与えられた目標から目を離してはいけなく、これを中心に私たちは生活を立てあげるべきです。③自由を見る(ヤコ1：23～25)あなたは自由だと分かっていますか？私たちが今本当に自由だと分かれば、私たちは進む道に責任を持ちます。しかし自由が分からない人は束縛されたと言いながら自分の行動に責任を持ちません。これが自由があるか無いかの違いです。自由には責任が伴います。その時のポイントを逃すと私たちが得るはずだった恵みを逃します。この私たちの決断によって私たちに関わる人まで、人生を失ってしまいます。まず、①・②のポイントを実行していきましょう。そして③は目標に。あくまで神さまを見て・変わらないものを見て…神さまを知っているなら神さまを見ればいいし、それが分からないなら揺るがないものを捜してください。その上で、私たちは自らのところを見張りましょう。私たちの目がちゃんと見えているのか、感じる事がちゃんと感じられているのか、やるべきことがやれているのか、それをしっかり判断しないと私たちは見る目を変えられず、結果、自分自身を変えられせん。今変わらないと今の現状が20年30年と続きます。変わるということが私たちのテーマですから神さまの身丈にとどくように成長していきましょう。